

独立行政法人地域医療機能推進機構

JCHO 登別病院通信

Japan
Community
Health care
Organization

発行日 2018年3月

NO3



今月の表紙 撮影者 早坂祐美子

今月号の内容

- 訪問看護ステーション開設3年目を迎えて
- 第3回 JCHO学会への参加
- 29年度 第2回医療安全研修
- 外来嚥下造影検査について
- 健康診断は受けられましたか
- JCHO登別病院のご案内
- 好評！通所リハビリ「クリスマス＆忘年会」
- 編集後記





訪問看護ステーション開設3年目を迎えて

JCHO 登別病院附属訪問看護ステーション 管理者 吉田 加代子

JCHO登別病院附属訪問看護ステーションは、平成27年5月1日に開設し、同年9月に登別東町4丁目にサテライト事業所を設置いたしました。

安心・安全な訪問看護を提供するために3名で連携し、お電話での相談・訪問を24時間体制（下記写真）で行っております。

毎年、実施している『利用者満足度調査』では、「いつでも不安な時に看護師さんに電話できるから安心です」「安心して家の生活ができている」と喜ばしい声も多くいただいております。また、一方で「訪問看護にもっと早く来てもらえばよかった」「こんなこともしてもらえるの？」などと訪問看護をご存知なかった方もいらっしゃいます。

「訪問看護」は、年齢や病気の種類、障害等の有無にかかわらず、住み慣れた場所で生活を続けられるように看護師が自宅へ訪問し、お手伝いさせていただくことです。

例えば、「一人暮らしで体調に不安がある」、「最近あまりごはんが食べられない」、「便秘で困っている」、「介護しているけれど不安になる」など、心配なことや不安なことがあれば私たちにご連絡ください。少しでも皆さまのお役にたてるよう日々がんばりたいと思います。

最後になりましたが、地域の皆さまに支えられ、開設3年目を迎えることができましたことを厚く御礼申し上げます。



私たち3人で
訪問看護を行っています。
よろしくお願いします。



第3回 JCHO学会への参加

リハビリテーション室 武 田 志 保

平成29年11月17・18日の2日間に亘り、東京都のTKPガーデンシティ品川・JCHO本部研修棟にて第3回JCHO地域医療総合医学会が開催されました。

本医学会は『地域医療、地域包括ケアの要として、超高齢社会における地域住民の多様なニーズに応え、地域住民の生活を支える』というJCHOの使命に対する、各病院の取り組みの報告と共有、また若年スタッフの研鑽を趣旨として、平成27年より開催されています。医師・看護師・リハビリテーション技士・管理栄養士・検査技師・放射線技師・薬剤師・事務職等の多職種が参加しており、登別病院からは、看護師・リハビリテーション技士・管理栄養士の計5名が、演題発表をしました。

シンポジウムでは、『JCHO病院間の医師派遣への対応』と題し、当院の伊藤美夫院長がシンポジストとして参加され、地方への医師不足に対する取り組みや、派遣する側・迎える側の双方の視点からの利点と今後の課題について報告と意見交換がされました。中でも、当院で研修を受けた先生から『医師だけでなく看護師やリハビリテーションスタッフと患者様の治療・機能回復について話し合う機会があり、貴重な

経験の機会をもてた』と感想があり、医師を迎える側として、私達の日々の業務が派遣医や研修医の先生の学びに貢献できることを知りました。

本医学会への参加は、日々の業務に活かせる貴重な学びや励みとなる情報が得られ、大変有意義なものとなりました。今後も地域医療へ少しでも貢献できるよう研鑽を続けて行きたいと思います。





29年度第2回医療安全研修

薬剤部 副薬剤科長 阿保信義



平成29年11月29日、12月12日、当院会議室において、医療安全研修が行われました。この研修は医療法で定められているもので、医療事故や、過誤をなくすため、年2回開催されています。

本年度の2回目の研修は、外部講師として、コヴィディエンジャパンの小島幸二氏を招き、「人工呼吸とは」と題して、ご講演をいただきました。講演では、人工呼吸器使用時に起こり得る医療事故について、詳しくお話を頂きました。人工呼吸器使用時の事故は、重大な事態になる可能性があり、細心の注意とバックアップを必要とし、治療過程においてヒューマンエラーが、起こらないようにする対策について、お話がありました。

また、薬剤師からは、医薬品管理の説明があり、過誤をなくすための、病棟・その他の部署での医薬品の保管方法、患者へ使用する時の注意点について説明が行われました。また、医薬要外劇物・毒物の保管の方法にも触っていました。



医療安全管理専任者からは、インシデント報告についてのお話がありました。当院では、レベル0（エラーは生じていないが、事故防止の観点で報告すべきケース）のヒヤリ・ハット報告が少ないが、このレベルの報告を多く出してもらい、あらかじめ対策を検討しておくことが、医療事故の減少につながっていくため、報告を積極的に行ってほしいとのお話がありました。

研修を通して、医療事故を無くすための努力には、日々の積み重ねが大切であり、より安全な医療を患者様に提供できるよう、心を引き締めなければ感じた研修でした。



「外来嚥下造影検査」

栄養部 主任栄養士 水野 光



話しながら飲み込んだり、急いで食事をした時など気管に食べ物が入ってムせる経験は誰にでもあるはずです。この肺に異物が入らない為の生体防御。年をとるにつれ弱くなり、吐きだせる力も弱くなり…。結果、肺に細菌等が入り炎症を起こし日本人の死因第3位の肺炎に繋がります。でも、その前もあることをご存じでしょうか？「むせる」「飲み込みにくい」の症状をそのままにしておくと飲水量が減り脱水で倒れられたり、食べる楽しみや食欲の低下→食べやすいものばかり食べる→栄養バランスを崩すという体力低下の負のスパイラルに陥り、自宅生活の困難さや急な病気への治癒力低下に繋がったりするのです。

この飲み込みが悪くなった症状を「嚥下障害」といいます。気が付いた時、早めの検査が受けられるよう当院神経内科では飲み込みの過程や状態をバリウム入りの食品を飲食しレントゲンで確認する「外来嚥下造影検査」を行っております。この検査を当院で開始してから数年前に胃瘻造設し他院療養入院中であったが、「食べたい」という意欲が現れているとの理由から受診さ

れた方、ムセている様子をご家族が心配され、確認の為検査された方等がいらっしゃいます。地域でより良い生活が過ごせるよう飲み込み予防策を医師だけでなく管理栄養士、言語聴覚士からもお伝えできますのでご活用ください。



健康診断は受けられましたか？

検診センター 堀 尾 久美子

健康診断は、健康の保持・増進のために、その時の健康状態を調べて、からだ全体から情報を得ることが主な目的です。

もし、検査結果に異常の予兆があれば、その要因や健康への影響をチェックし、病気を予防するうえで、日常生活の改善に生かしてこそ健康診断の意義があります。

そのためには、定期的に健康診断を受けることが最も大切なことです。

「病気を発見されるのが怖い」「健康診断なんて面倒だ」という方など、健康診断の受診に対して消極的な方も見受けられ、体調の異変を感じてから受診しても発見時にはかなり病気が進行していたというケースも耳にすることがあります。

からだの中では日々、さまざまな変化が起きていますから、この変化を知る意味でも健康診断の必要性が高まってきます。

当院では平成24年より健診センターを開設し、センター内に待合室（飲み物サ

ービス）、更衣室、診察室、計測室を設け、皆様が落ち着いて受診できるようにいたしました。

地域の皆様の健康をお守りする医療機関として、医師・看護師をはじめ専従スタッフが、皆様に安心して受診いただけるよう、健康予防をサポートいたします。

生活習慣病予防健診・各種がん検診をはじめ、平成29年4月からは婦人科検診を開始いたしました。送迎バスの運行や小さいお子様の託児も行っております。

お気軽にご連絡ご相談ください。ご利用を心よりお待ち申し上げます。



健 診 の ご 案 内

生活習慣予防の健診は、あなたの健康を守り、明るい家庭生活を築くためにも、定期的に受けることが必要です。

健診コース

- 日帰り人間ドック
- 生活習慣病健診
- 簡易健診【A】
- 簡易健診【B】
- 脳ドック（水曜・木曜）
- 若年健診
- レディース健診（毎月最終木曜）
- 乳がん検診（マンモグラフィ検査のみ）
- 子宮がん検診（細胞診 + エコー検査）

お申込み方法

健康診断は、完全予約制です。
お電話または、当院健診センターまでお越し下さい。

**(自治体の助成対象の健診も受けられます。)
お気軽にご相談下さい。**

幌別方面より当院まで、通院用バスを運行しております。
ご希望の方は、ご連絡下さい。詳しい乗車場所、乗車時刻をお知らせいたします。
(外来通院の方もご利用いただけます)

予約
受付

**月曜～金曜(祝日を除く)
午後2時～午後5時
☎(0143)84-2165 健診担当**

JCHO 登別病院のご案内

●外来診療体制

		月	火	水	木	金
整形外科	午前	オザワケイイチ 小澤慶一 タナカヒロキ 田中宏毅	オザワケイイチ 小澤慶一 タナカヒロキ 田中宏毅	ナカヤマケイスケ 中山恵介 タナカヒロキ 田中秀直	オザワケイイチ 小澤慶一 タナカヒロキ 田中秀直	ナカヤマケイスケ 中山恵介 タナカヒロキ 田中秀直
外科	午前			出張医 (予約制)		
内科	午前	ツカハラダイスケ 塙原大輔	ツカハラダイスケ 塙原大輔	ツカハラダイスケ 塙原大輔	ツカハラダイスケ 塙原大輔	ヨコヤマトヨハル 横山豊治
神経内科	午前	出張医(予約制)			出張医(予約制)	
午後		〃			〃	
ペインクリニック	午前		カマタノリコ 鎌田紀子			
泌尿器科	午前				出張医(予約制)	
婦人科健診					最終木曜日のみ	

※診療体制が変更となる場合があります。その際は院内告知やホームページ上でお知らせします。

●外来診療受付・診療開始時間

	診療受付時間	備考
午前	8時30分～11時30分	9時から(神経内科は9時30分)から診療開始です

※時間外の場合は事前にご連絡をお願いします。

※整形外科は24時間365日の診療体制をとっていますが、土日夜間等は内科系医師が初期対応する場合があります。

●その他の事業

JCHO登別病院附属訪問看護ステーション
〒059-0598 登別市登別温泉町133番地 ☎代表(0143)84-2165

JCHO登別病院附属訪問看護ステーション サテライト事業所
〒059-0464 登別市登別東町4丁目23-4 ☎(0143)84-1983

JCHO登別病院訪問リハビリテーション事業所
〒059-0598 登別市登別温泉町133番地 ☎代表(0143)84-2165

JCHO登別病院短時間通所リハビリテーション事業所トレイユ
〒059-0598 登別市登別温泉町133番地 ☎代表(0143)84-2165

JCHO登別病院附属居宅介護支援センター
〒059-0016 登別市片倉町6丁目9番地1 登別市総合福祉センター しんた21内 ☎(0143)88-2107

地域包括支援センターゆのか(登別市委託事業)
〒059-0016 登別市片倉町6丁目9番地1 登別市総合福祉センター しんた21内 ☎(0143)88-2106

JCHO登別病院
代表お問い合わせ先

電話番号 0143-84-2165 FAX番号 0143-84-3206
(予約等の受付は月～金8時30分～17時15分までです)

メールアドレス main@noboribetsu.jcho.go.jp
ホームページ http://noboribetsu.jcho.go.jp

通所リハビリ「クリスマス＆忘年会」を開催

通所リハビリ 齊藤 真樹



昨年12月、利用者さまに楽しんでいただけたらと趣向を凝らし、業務の合間に準備・練習を重ね「クリスマス＆忘年会」を開催しました。

その中で、1番賑わいを見せたのは、2チームが向い合わせに座り、足だけでボールを押し合いながら、それぞれのゴールへボールを入れる「ベンチサッカー」です。白熱した攻防戦が繰り広げられ、普段は見られない笑い声が響きました。

次に大好評(!?)だったのは、スコップをスプーンで叩く「スコップ三味線」です。

普段と違う奇抜な職員の姿に大歓声！また、『浪花節だよ人生は』の曲に合わせ、手拍子

と共に一緒に歌い大いに盛り上りました。

利用者さまから、「楽しかったよ、ありがとう」「ご苦労様でした」とねぎらいの言葉をいただき疲れも吹き飛びました。職員一同、これからも利用者さまが望む在宅生活を少しでも支援していただけるよう取り組んでいきたいと思います。



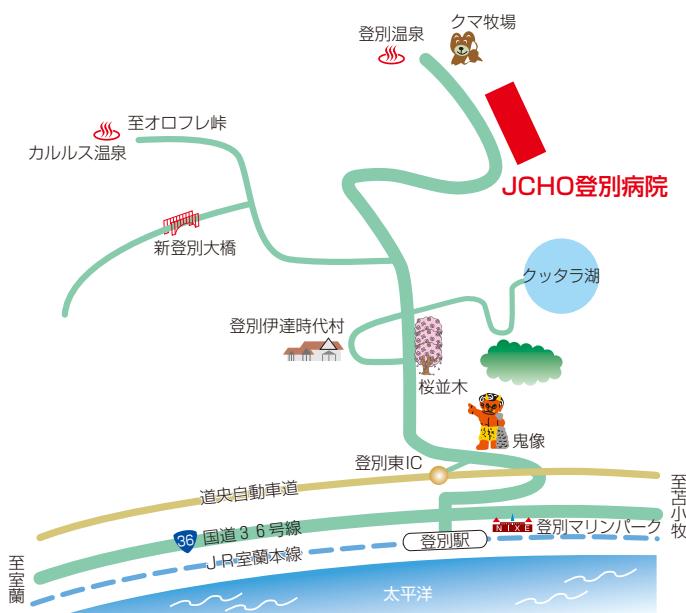
編集後記

早いもので、お届けする誌面も第三号となりました。新病院開設に向けて、各部屋の配置をどうするかなどいろいろ検討が進んでおります。開院は東京オリンピック・パラリンピックの年になります。職員はそれが先のようで、実はそうでもないらしいということに気づき、不思議な忙しさを感じております。これから控えるスケジュールとするべき項目を前に、うれしい悲鳴wwwの日々が続きそうです。国の大規模なイベントと同じ年にスタートするのも、いい巡り合わせに思えます。おそらく、工事が始まると竣工まで、あっという間の出来事になってしまうのではないかでしょうか。

この登別温泉の地にあって地域医療に貢献してきた長い歴史を、また新たな地で担ってまいります。ご期待ください。

引き続き皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

(N.T.)



<各交通機関>

- JR登別駅下車(特急列車停車)登別温泉行きバス(病院前下車徒歩2分)
- 札幌-登別温泉高速バス(病院前下車徒歩2分)
- 道央自動車道: 登別東インターフェースより7分



ジェイコー
JCHO 登別病院

独立行政法人地域医療機能推進機構登別病院

〒059-0598 登別市登別温泉町133番地
TEL(0143)84-2165 FAX(0143)84-3206

<http://noboribetsu.jcho.go.jp>
main@noboribetsu.jcho.go.jp

出版責任者 院長 伊藤美夫
編集長 事務長 高橋尚幸